

第6回 東名遺跡整備指導委員会 次第

■日時：令和7年2月18日（火）

14時00分～16時30分

■場所：佐賀市立金立公民館集会室

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(1) 第5回委員会での主な意見とその対応について

(2) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設運営コンセプトについて

(3) 地域力を使った仕組みづくりについて

(4) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター建築実施設計について

(5) 東名遺跡屋内展示実施設計について

(6) 今後のスケジュールについて

(7) その他

5. 閉会

東名遺跡整備指導委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 東名遺跡のもつ本質的価値を保存・継承していくために必要な整備事業を円滑に進めるため、東名遺跡整備指導委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、協議・検討を行うものとする。

- (1) 東名遺跡の展示整備及び活用に関すること
- (2) その他整備事業を進める上で必要となる事項

(組織)

第3条 委員会は、委員8名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、東名遺跡整備事業が完了するまでとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により選任する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、地域振興部文化財課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年7月14日から施行する。

東名遺跡整備指導委員会 名簿

区分	氏名	所属	役職	専門	出席	随行等
委員	中 眞	奈良文化財研究所	所長	造園学	○	—
委員	小畑 弘己	熊本大学 大学院人文社会科学研究所	教授	考古学	○	—
委員	金原 正明	元奈良教育大学	元教授	古環境復元	○	—
委員	赤司 善彦	大野城心のふるさと館	館長	展示普及	○	—
委員	三島 伸雄	佐賀大学 理工学部	教授/副学長	景観	○	—
委員	重藤 輝行	佐賀大学 芸術地域デザイン学部	教授	考古学	○	—
委員	有岡 大介	有岡合同会社	代表	活用	○	—
委員	谷 政司	株式会社JTB	支店長	観光	×	—
助言者	小野 友記子	文化庁文化資源活用課	文化財調査官	国史跡整備部門	○	—
助言者	渋谷 格	佐賀県文化・観光局文化課文化財保護・活用室	係長	県文化財担当	○	—
オブザーバー	堤 圭介	国土交通省九州地方整備局佐賀河川事務所	建設専門官	調整池管理者	○	—
関係機関	川島 健二	佐賀県佐賀土木事務所	副所長	県道関係	○	主任主査・野田 充
地元関係団体	藤原 千房	NPO法人 東名縄文の会	事務局長	地元	○	—
庁内関係部署	古賀 俊誠	佐賀市建設部建築住宅課	副課長	建築担当	○	主査・中島 甫
庁内関係部署	北村 勉	佐賀市建設部道路整備課	主査	土木担当	○	—
庁内関係部署	野田 龍太郎	佐賀市建設部河川砂防課	技師	調整池管理担当	○	—
庁内関係部署	—	佐賀市経済部観光振興課	—	観光担当	×	—
事務局		佐賀市地域振興部文化財課		—	○	—

1 第5回東名遺跡整備指導委員会 主な意見と対応方針

【資料1】

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
スケジュール	1	調整がうまくついているのか確認したいため、もう少し詳細なスケジュールを作ってほしい。	—	スケジュール参照
	2	広報や運営体制についてもスケジュールに入れた方がよい。施設ができる前の準備段階から広報活動を始めた方がよいし、カフェの運営をどのように決めていくかなども入れておくべきだと思う。	—	
諸室配置	3	考古ラボ・キッズコーナーとカフェショップの位置を入れ替えてはどうか。カフェショップで購入したものをテイクアウトでデッキテラスまで、風除室を通過して出入りできる。エントランスの見た目も良くなる。	—	カフェショップの配置については、多目的室を重ね使いでラウンジ利用するなど、様々な検討を踏まえた上で決定した。既に設計を進めており変更は困難なため、現計画位置での効果的・効率的な運営を考えていきたい。
	4	カフェが展示エリアの前にあるのは違和感がある。外やデッキテラス側に持って行ってはどうか。	—	
	5	全体的に倉庫が少ないし、遠い印象がある。置き場所が無く、様々な問題が発生する可能性がある。	—	
書籍の閲覧	6	埋蔵文化財の情報公開と言えば発掘調査報告書の閲覧だと思うが、佐賀市の報告書はどこかに配架するつもりはあるのか。	一般閲覧用は考古ラボに配架したい。専門的な書籍の閲覧は本館外収蔵庫（西端）に収納予定で、希望者が閲覧できるような仕組みを検討したい。	—
考古ラボ	7	考古ラボは固定したエリアとして設置する必要があるのか。	考古学に関する実務体験や遺跡に因んだワークショップなど、様々な形態で運用可能と考えている。運用しながら変更ができるように、什器等も固定せずに空間として確保したい。	○子ども（小中学生）を中心とした考古学に親しむエリアとする。 ・実物に触れる体験。 ・埋蔵文化財の整理作業の体験、専門家との交流、考古学に興味を引く。 ・自然科学分析の紹介や学習。 ・専門書の閲覧、学習等。 ・考古クラブや定期的な簡易講座の開催、実験考古学の実施等。 ・新発見遺物の展示や今月の一品展示等→見る収蔵庫。
	8	メニューの具体性がないので、イメージしにくい。	—	

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
考古ラボ	9	多目的室との役割分担は？	考古ラボは少人数の日常使い。考古クラブ等のサークル活動に使用する。大きな団体、イベント時は多目的室を使用する。	多目的室では団体見学のレクチャーや体験学習、講座や講演会、歴史にとらわれないイベント等、考古ラボでは対応が難しい催し物等の際に使用する。
	10	運用が難しい。休日の子ども向けのメニューを考えた方が良い。	—	子どもたちの知的探求心に応える場とするため、できるだけ子どもたちのニーズに応じた運用を目指したい。什器等は可動式とし、運用しながら改変できるように、レイアウトの変更が可能な設えを検討する。
	11	整理室を窓越しに見せることは止めた方が良い。時間を決めて、ツアーのように整理室の中を見学させた方が良い。	—	整理作業見学ツアーも含め、窓越しにのぞき込むというより、具体的な作業体験ができるような運用を検討したい。
	12	ここに書籍を置くことは非常に良い。考古関係の本を沢山並べて、展示のように見せるのも良い。	—	考古ラボの壁面に高層棚を設置し、考古系の書籍を陳列することも検討している。
	13	収蔵展示について、このつくり方だと実現しないのではないか。	考古ラボの北壁に一収蔵庫がのぞける窓を付けている。窓の目の前には、遺物を展示する棚があり、その奥に遺物が収蔵されている様子が見えるイメージ。	【資料3-2】にイメージ写真を掲載。
キッズコーナー	14	本格的なキッズコーナーをつくり込む必要があるのか。	未就学児を対象とし、安全性確保のため固定部分も出てくる可能性があるが、できるだけ可動式で、レイアウトの変更ができる設えを検討したい。	展示が分からない未就学児を対象に、縄文にちなんだ遊具等で黙々と遊びながら学べる機会を提供する。子育て世代をコアターゲットとし、年間5000人程度を想定している。考古ラボとキッズコーナーを隣接させることで、兄弟連れの親子の来場も期待される。
考古ラボ キッズコーナー	15	入口付近にあって違和感がないかどうか検証するためにも、イメージパースなどを提示してほしい。	—	ラボやキッズのエリアについては、共用（ラウンジ）エリアとのつながりを意識しながら、違和感の少ない設えや内装等を検討する。また、什器等は可動式とし、イベント時等には、空間が広くとれるなどのレイアウト変更ができるように検討する。
	16	フリーハンドで変えていけるような形にしておいた方が後々の使い勝手は良いと思うが、どういう形態でスタートするのかくらいは少し思い描きながらデザインを考えた方が良い。	—	

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
多目的室	17	子どもたちが体験広場で様々な体験をして、足を洗った後の動線はどうなっているのか。多目的室の開口を少し広くしても良いのではなか。	多目的室に出入口がある。	多目的室の出入口を少し広くした（ガラス引き戸1枚分）。 【資料2-4】参照。
ラウンジ	18	ラウンジからデッキテラスへの開口が大きいのが、虫などの対策はどう考えているのか。風除室等が必要ではないか。	網戸を設置している。 文化庁との協議では、展示室の出入口を自動扉にすることで、解放される時間を制限しながらであれば問題無いという意見をいただいているようであるが、再度確認したい。	施設内にはカフェもあり、網戸や足ふきマット、ゴミ箱の設置等、IPM対策は十分に検討したい。また常時開放せず、気候の良い季節のイベント時等、限られた期間とすることや、他施設の重要文化財借用（53条公開）時は解放を控える等、運用ルールの制定を検討したい。（文化庁確認済）
トイレ	19	トイレは、男子よりも女子の使用頻度が高いため、女子トイレの個数を増やしてはどうか。	現実的に女子の来館者が多い可能性もあるので、男子の個数を少なくして女子の個数を多くすることも視野に入れながら検討したい。	空調衛生工学会の「適正器具算定法」の基準に沿って必要器具数の算定を行っている（男女比1:1）。男女比3:7で試算しても、男子の個数は減少するが女子の個数は変動しないため、現行通りとした。
建築意匠 ランドスケープ	20	東名らしさはどこに表現されているのか。植栽や外構で、駐車場から入ってくるところから雰囲気をつくると良い。	カフェショップの上の壁面はかごの編み目をモチーフにしたり、遺跡から見つかった貝殻でつくった漆喰を壁に塗ったり、遺跡から見つかったものをカフェのメニューやショップの商品に反映させることを検討している。	東名遺跡周辺で当時生息していた樹木を中心に植栽を検討（体験広場中心）。縄文時代の雰囲気づくりや体験活動にも活用。
整理室	21	整理室と事務室で30人くらいの方が働くとする、休憩スペースやロッカースペースなどが手狭ではないか。作業場も少し狭すぎるし、トイレに行くのも不便である。建物の裏にトイレをつくってはどうか。ついでにシャワー室も付けて。	図中に記載されている椅子の数だけ人が座る訳ではないので、整理室内に休憩するスペースはある程度確保できると思う。	休憩場所については、ラウンジや多目的室等も含め柔軟に対応できるようにしたい。
本館外収蔵庫	22	将来的に増設する場合は、現状では増設部分に出入口が設置しづらいため、遺物を収蔵庫内に搬入したからの移動距離が長くなる。作業場の苦労が無いように配慮してほしい。	増設棟は、既存棟に接続せずに設置する可能性があり、既存棟と増設棟の間に出入口を設けることができる。さらに、増設予定地の東側に合併浄化槽を設け設置するため、その分増設棟の長さは短くなる見込みである。	増設する場合は、遺物を収蔵庫内に搬入してからの移動距離がなるべく短くなるように配慮したい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
駐車場	23	大型車の駐車位置は、退場するのに数回の切り返しが必要である。安全面を考慮して、位置を見直した方が良い。	検討が不十分であったため、再検討したい。	退場のことを考慮し、大型車の位置を変更した。【資料2-1】参照。
展示室	24	常設展示室から企画展示室への出入口が2箇所あって、少し混乱を招くような配置になっている。出入口を1箇所にして、企画展示室を1方向に回るようにして動線を分かりやすくしてはどうか。	—	企画展示室への出入口を1箇所にまとめ、動線を1方向とした。【資料3-1】参照。
	25	企画展示室は展示ケースが対面になっているため、ライトの映り込みを軽減する必要がある。	—	なるべく映り込みを軽減できるように、ライティング等を工夫したい。
	26	全体的に、要所で大事なところは面白い見せ方をするのは良いが、数年経った時に陳腐化してしまうおそれがあるので、バランスをとった方が良い。	—	あまりつくり込みすぎないように配慮したい。
展示方法	27	かご等は、細かいところが見たいので、見やすい高さで配置を考えてほしい。	—	編みかごは個別の展示台を製作し、上からのぞいて鑑賞しやすいように工夫をした。【資料3-4】参照。
	28	展示については随分良くなった。最近博物館で問題になっているのは、ジェンダーバイアスである。ミニドールの制作等は気をつけた方が良い。	—	ミニドール等、男女の区別を表現する場合は、なるべく根拠に基づいて行うようにしたい。
	29	キャプション等、分かりやすくする考え方は良いと思う。まず関心を持ってもらって、それから深く入る、スマホを使用する方法はとても良いと思う。	—	—
	30	多言語化への対応を検討してほしい。	展示の大きなタイトルについては、多言語化の表記を考えている。キャプション等は字数が増えて、帰って見にくくなるので、別途小冊子などで対応しようと思っている。	観光庁と連携した文化庁の文化財多言語解説整備事業等、補助事業も調査、検討したい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
展示方法	31	屋内外の展示に、バーチャルリアリティの手法を取り込んだ方が面白いのではないか。	当時の景観をVRで見ることは以前から検討していたが、コスト面を考慮するとなかなか厳しい。ただ、現地にはそういう当時の景観がイメージしやすいものがあった方が良いと思う。	展示内容に沿った様子を再現したミニドールを置き、ビジュアルとして具体的にイメージしてもらう方法を検討している。ミニドールはリアル過ぎず、柔らかい雰囲気表現する。 屋外展示については、令和7年度に実施予定の実施設計の中で具体的に検討したい。
展示の流れ	32	「縄文のくらしや文化に触れ、これからのくらしに活かす、見直す」というのは今回の大きなテーマだ。「縄文のくらしや文化に触れ」という部分は十分触れているが、「これからのくらしに活かす、見直す」という部分は明確でなく、クロージングのところに何かあっても良いと思う。有意義な企画を検討してほしい。	展示室内の最後で「温暖化によってムラが始まり、温暖化によってムラが終わる」という、現在の地球温暖化に重ね合わせる解説があつて、それを最後(D)の部分でうまく「これからのくらしに活かす」というテーマに繋げる工夫が必要だと思っている。	現代の環境問題(サステナブル・SDGs)等へ繋げるよう工夫・検討したい。
	33	環境が大きく変動していることをどこかに示すことはできないか。 東名遺跡の特性から入って、最後に「今からも地球温暖化が進めば、こういうことが起こりますよ」というメッセージを投げかけるのであれば、導入エリアに、急激な環境変動を示すような環境データのグラフ等をビジュアル的に展示するなど検討した方が良い。	—	導入エリアの「東名絵巻」で、温暖化による縄文海進に触れ、温暖化の恵みを受けてムラが誕生したこと等、環境変動について取り上げることを検討している。 【資料3-3】参照。
	34	皆さん「ブラタモリ」が好きなので、導入エリアに地形と地質と歴史を合わせた遺跡にまつわる環境を取り上げてほしい。	—	
ラウンジ展示	35	ラウンジと展示エリアが少し隔離しているようだ。ラウンジにも東名遺跡に関連するようなパネルやアイテム等の展示があった方が良い。	ラウンジにも小さめの展示ケースを置いたり、テーブルを利用した展示を行う。遺跡に因んだカフェメニュー等も展示の一部だと考えている。	カフェエリアで小型ケースによる展示を検討、トイレにも糞石展示等を検討している。 【資料3-2】参照。
企画・イベント	36	アニメや料理をされる方とのコラボ等、歴史に関心の無い人たちを引きつけるような企画を考えてほしい。カフェメニューも展示の1つとして考えてほしい。	—	歴史に直接関係の無いユニークな企画も検討したい。カフェメニューも縄文の食を現代の生活に取り入れたメニューなどを考えていきたい。企画・運営については業務委託も含め検討していきたい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
料金体系	37	有料と無料では事務量が大きく変わる。経営という観点で収支のバランスも考えた上で、有料化を検討した方が良い。また、有料にする場合は、多様な料金体系、支払い方法を検討する必要がある。	有料化については、今後具体的に検証していきたい。	有料化については、関連業務による人件費等も考慮しながら、他施設の状況調査も含め具体的に検証していきたい。
施設	38	施設が災害時の避難所になるという立てつけがあれば、地域住民にも受け入れやすいのではないか。	財源の1つとして避難所の起債を検討しており、避難所として活用できるような方向性で考えている。	—

2 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設運営コンセプト

考**古**学って、考**今**学かも。

～8000年前の縄文生活に、サステナブルのヒントをもらおう～

3 地域力を活かした仕組みづくり

■東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設整備と運営の方向性

- 貴重な出土遺物や資料を、**市民の宝として守り**、その魅力を**後世に伝え**、訪れる人に快適で豊かな時間を過ごしてもらう。
- 各種イベントや地域の行事等、歴史にとらわれない活用も実施し、人が集まる仕掛けをすることで経済循環を生み、**地域に還元**する。
- 体験をとおして後世に伝えるだけでなく、**地域力**を活かし、組み込み、一緒につくりあげること、市民に親しまれ、愛される施設を目指す。
- 地域力を、**施設の設え、集客コンテンツの充実、施設の運営**等に活かす。
- キッズコーナー等で、子どもたちが歴史に触れるきっかけをつくり、芽生えた知的探求心に答えることにより、**将来の文化の担い手を育成**する。

※【**地域力**】＝**地域の材料、地域の事業者・職人や市民の「技術」と「知恵」**

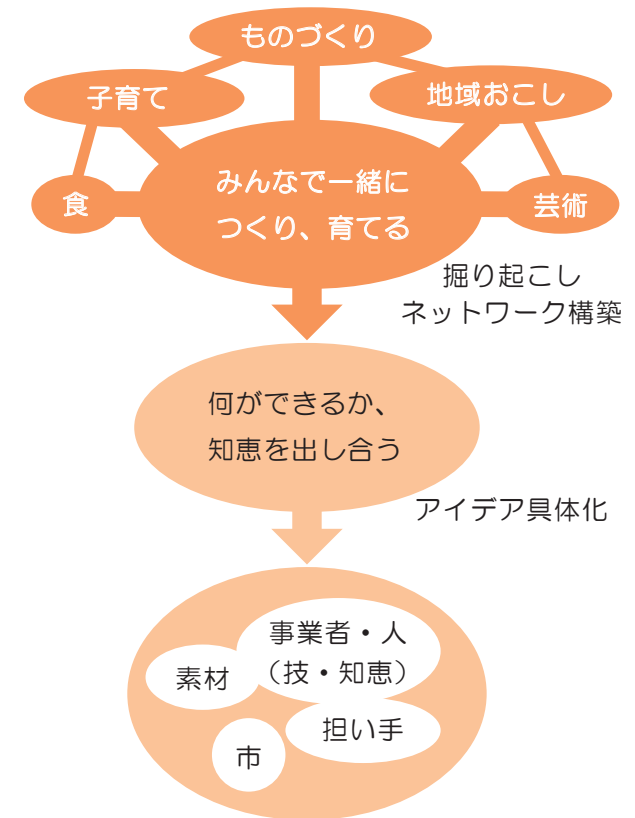
■東名遺跡活用ワーキンググループについて

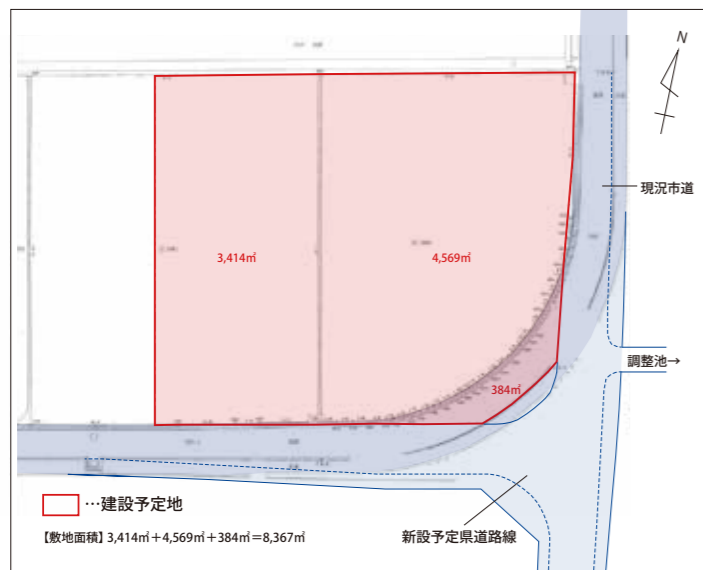
令和5年度に、以下を目的に地元の方を中心に組織した。

- ・ 市民目線、来訪者目線での活用や整備のあり方を具体的に検討する。
- ・ 地元やまちづくりに関する意見を受け準備を進めることでスムーズな運営開始を図る。

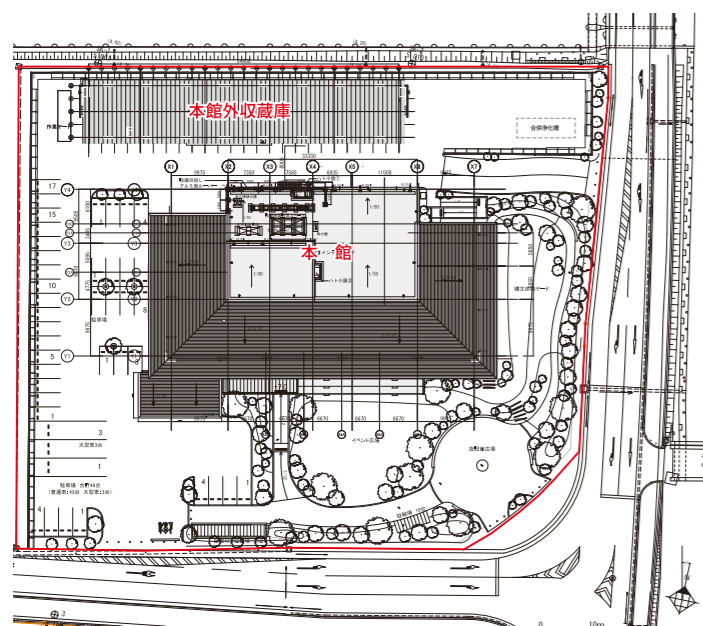
現在、新たに「食・子育て」「ものづくり」「芸術」「技術者」などの分野の方に参加していただき、地域力の掘り起こし、ネットワークの構築を進めている。今後、施設の設え、集客コンテンツの充実、施設運営等に活かしていく。

地域力活用の仕組みイメージ





施設位置図



施設配置計画図



施設外観イメージ

■調査研究エリア

整理室
発掘調査で出土した遺物の整理・復元・実測・調査記録の整理作業を行う。調査研究活動への理解を深めるため、バックヤードツアーや考古ラボと連携した活動を検討する。

整理室作業イメージ

■収蔵エリア (本館・本館外収蔵庫)

一般収蔵庫
1種資料の収蔵を行う。高層棚を配置し稠密性を図る。本館に収蔵できない1種資料は本館外収蔵庫に収蔵する。

特別収蔵庫
重要文化財等、温湿度管理を必要とする重要な資料を収蔵する。

特別収蔵庫イメージ

■展示エリア

導入エリア
常設展示への期待を高めるイントロダクション。

常設展示室
東名遺跡のガイダンス展示。貴重な実物資料をふんだんに展示公開。

企画展示室
東名遺跡に関連づけたテーマで年数回展示更新。

展示エリアイメージ

■普及活動エリア

多目的室
普段はラウンジー一体的に活用するが、イベントによっては、移動間仕切り(引き戸)によって、仕切った形で活用することが可能。縄文のものづくり体験(体験広場と一体的に活用)や講演会等の多目的な学習や様々な活動スペースとして使用する。

体験学習イメージ

体験広場 (屋外)

火起こし、縄文食づくり等、屋内と連動した屋外活動プログラムのフィールドとして活用する。

東名遺跡周辺に生息していた樹木等を植栽し、当時の環境展示に止まらず、様々な体験に活用。

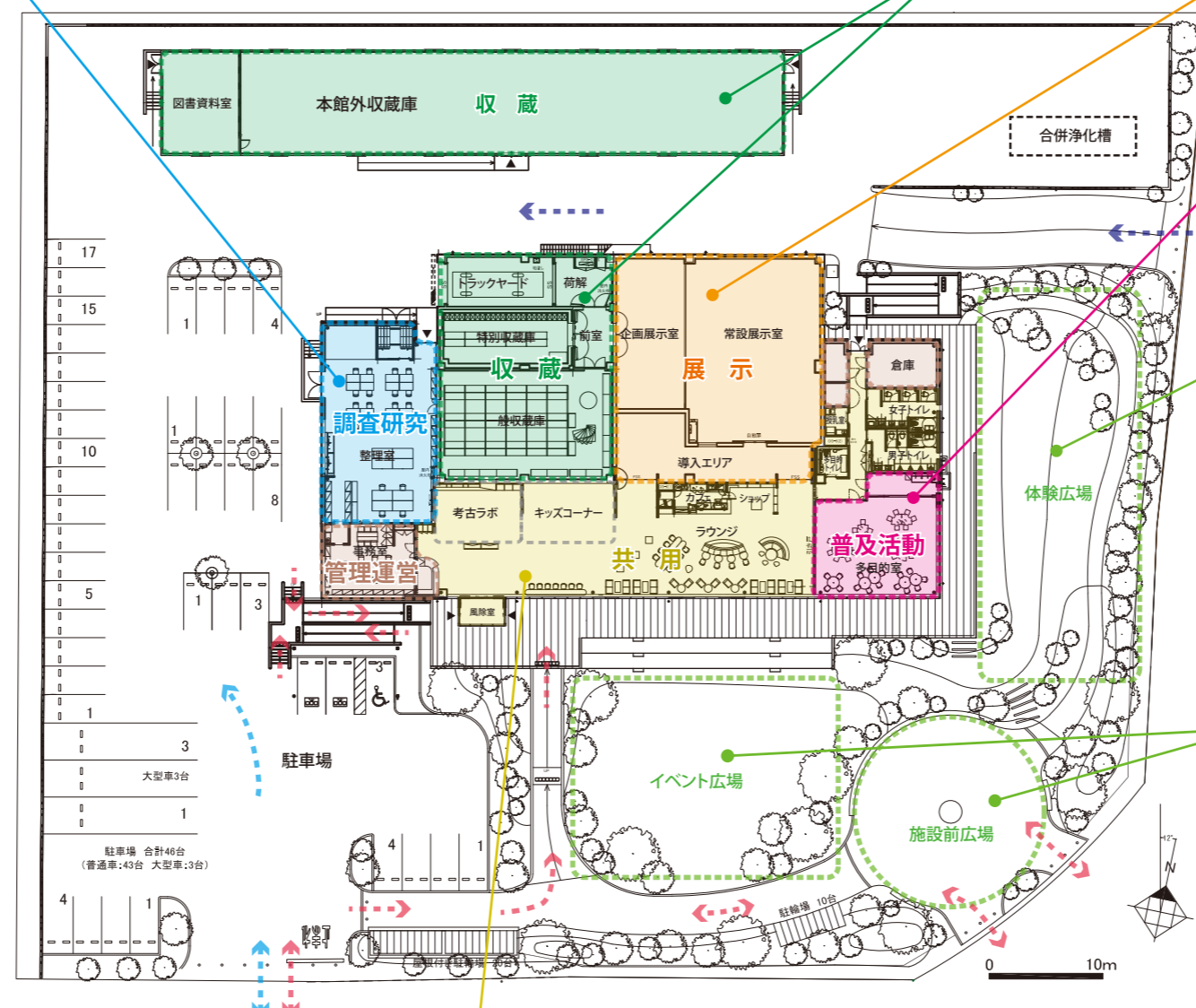
縄文体験(火起こし)イメージ

縄文体験(弓矢)イメージ

イベント・施設前広場 (屋外)

イベント広場は、デッキテラス介し、屋内と一体的な休憩や交流ができる広場。縄文祭り・BBQなど縄文イベントを行う場所としても活用が可能。施設前広場はキッチンカー等の乗り入れが可能で、史跡地へ向かう結節点となる広場。

施設前広場イメージ



- <凡例>
- 歩行者動線
 - 一般車両動線 駐車場計46台
 - 関係車両動線 駐輪場計30台

- 【植栽予定の主な樹種】**
- ・オニグルミ、クヌギ、ナラガシワ、イチイガシカヤ、クリ、カン類、シイ類、ムクロジイヌビワ等の縄文時代の有用樹種
 - ・地域景観に溶け込む郷土種
 - ・季節感を演出する花木や紅葉木等

■共用エリア

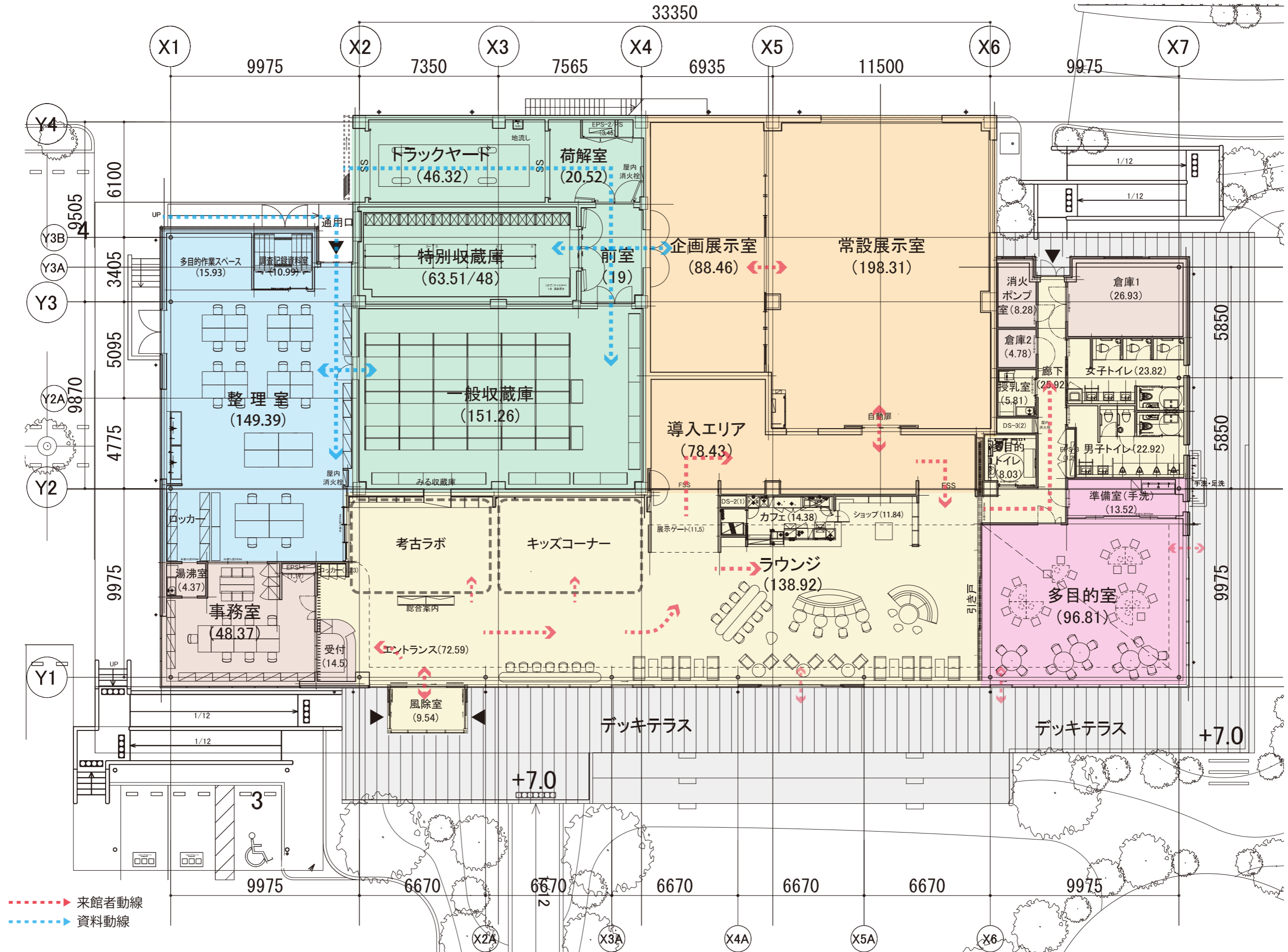
ラウンジ
南側の緑豊かな芝生広場の景観を存分に楽しめる開放的な縁側空間。好きな時に来て、好きなだけ過ごせる近寄りやすく居心地のよいラウンジ空間。ラウンジを施設の中心に据え、各機能と繋がるわかりやすい施設構成とする。普段は移動間仕切(引き戸)を開放することによって、多目的室と一体的に利用する。

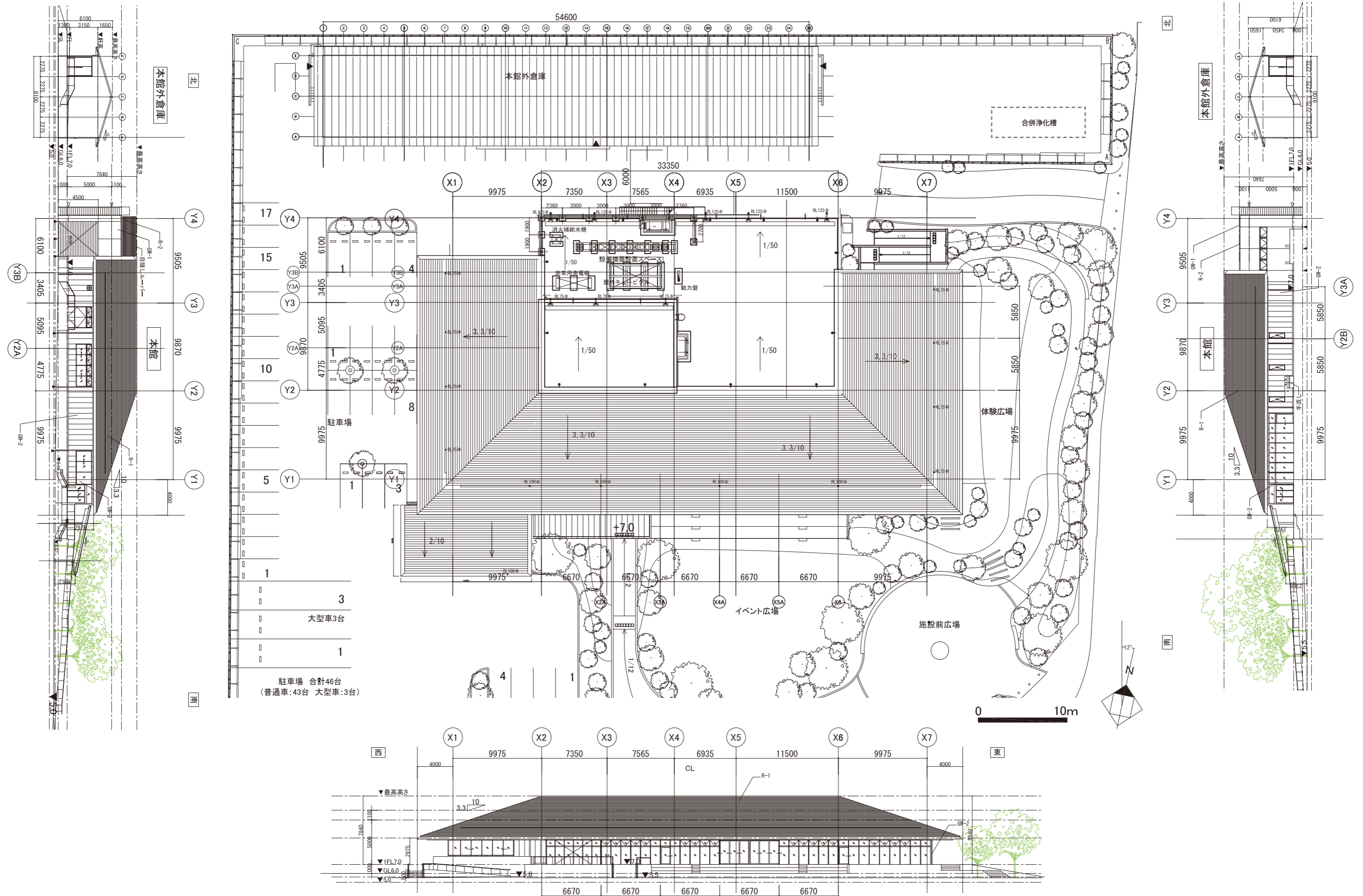
ラウンジイメージ

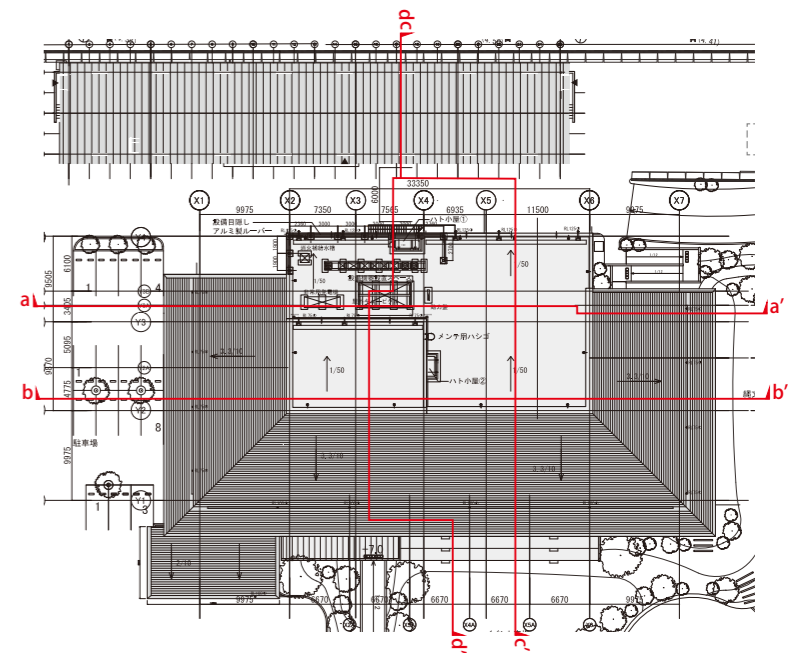
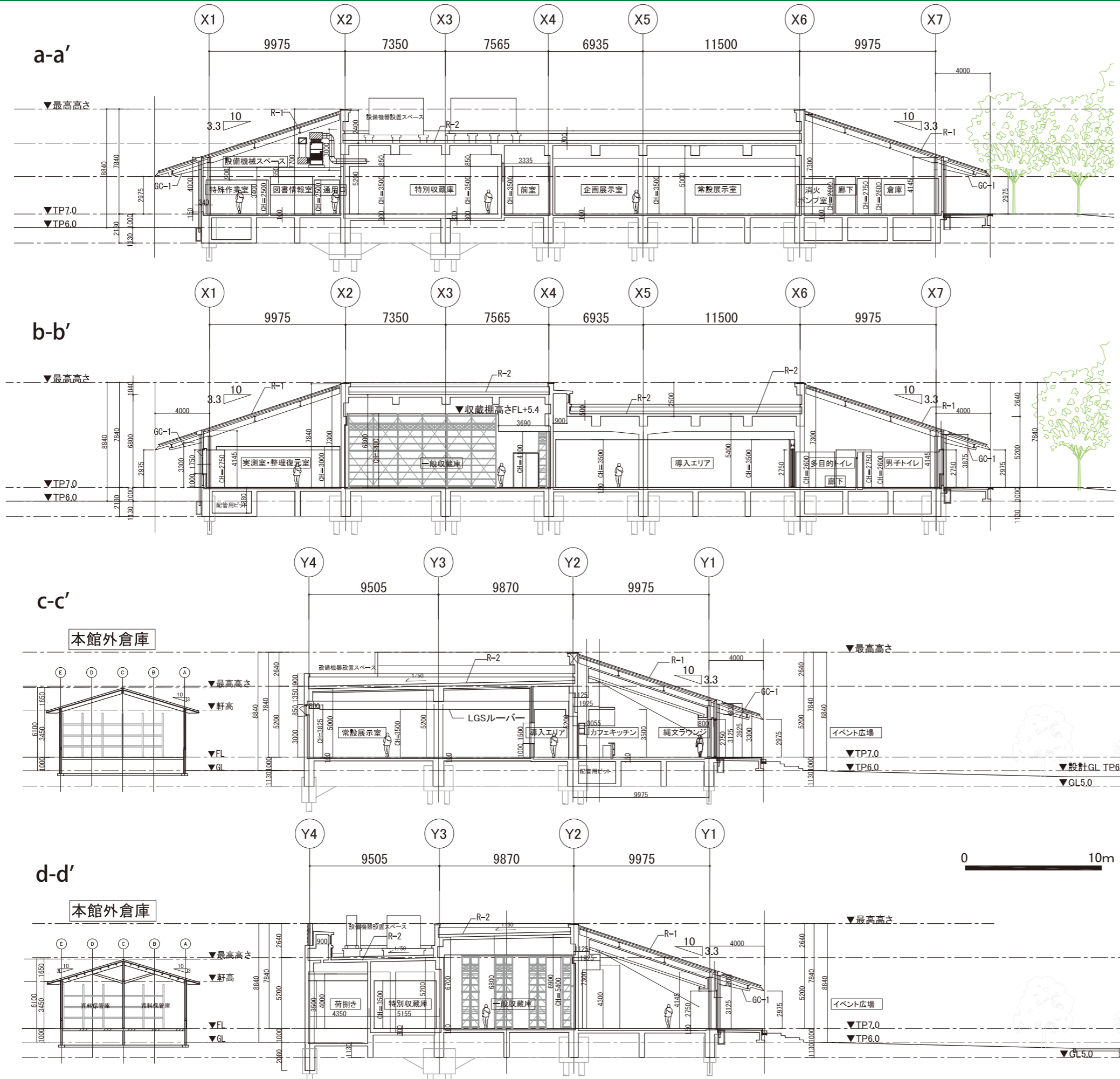
カフェ・ショップ
テーブルを活用した小展示、縄文に絡めたメニューやグッズ販売等、リラックスした空間で、歴史に触れるきっかけを提供する。

キッズコーナー
展示が分からない未就学児を対象に、縄文にちなんだ遊具等で黙々と遊びながら学べる機会を提供する。

考古ラボ
子ども(小中学生)を中心とした考古学に親しむエリア。実物に触れる体験や埋蔵文化財の作業体験をはじめ、考古クラブ等の開催を検討している。







断面位置図

諸室の概要と面積

本館内		概要	床面積 (㎡)
エリア/諸室名			
収蔵	一般収蔵庫	I種資料の中でも重要な遺物の保管。	300.77
	特別収蔵庫	重要文化財など温湿度を管理する資料を収蔵。	
	前室	収蔵庫への搬出入の際の慣らしに必要。	
	荷解室	貸借資料や収蔵品等の搬出・搬入。	
	トラックヤード	貸借資料や収蔵品等の搬出・搬入を行う際の安全性を確保。	
調査研究	整理室	発掘調査で出土した遺物の整理・復元・実測、調査記録の整理、報告書作成。	176.33
	多目的作業スペース	特殊遺物処理、写場、外部調査対応等。	
	調査記録資料室	発掘調査に関わる写真資料を中心に保管。	
展示	常設展示室	東名遺跡のガイダンス展示。	365.20
	企画展示室	佐賀市保有の出土品を中心にテーマ別に展示。	
	導入エリア	展示室へ誘引するエリア。	
普及活動	多目的室	体験学習や講演会・講座等の多目的な活動スペースとして使用。	110.33
	収納・給排水	体験活動で使用する給排水、道具類の収納。	
共用	エントランス	来館者を迎える空間。団体客の滞留スペース。	445.74
	ラウンジ	緑豊かな交流・休憩スペース。展示やカフェ機能も担う。市内の文化財情報ははじめとした情報発信スペースを含む。	
	考古ラボ	埋蔵文化財の調査に関わる体験ができる。考古学に係る基礎知識が学べる。	
	キッズコーナー	縄文をテーマにした子どもの遊びコーナー。	
	カフェショップ	来館者への飲食・物販の提供。	
	トイレ等	来館者や館内関係者が使用する便設施設。	
管理運営	廊下等	来館者や館内関係者が使用する通路。	138.18
	事務室	施設の管理・運営や来館者への対応。	
	倉庫	什器やイベントに使用する道具等の保管。	
		本館 延床面積 (㎡)	1536.55
本館外収蔵庫	本館外倉庫	延床面積 (㎡)	496.86

展示の体験方針

地中深く埋まった8,000年の暮らしから、今を考える

“もしかして今より豊かなくらしをしていたかも?”

企画展示

縄文をきっかけに地域の歴史を知る

企画展の多様な展示資料に対応できるよう、3種のケースで構成。

- ①ひな壇ケース
- ②4方向ケース
- ③ウォールケース



国重文
増田遺跡・多鈕細文鏡 / 弥生



県重文
築山経塚・瓦経 / 古代

導入展示

常設展への期待を高めるイントロダクション

A | 東名絵巻

佐賀の縄文時代のくらしと現代のくらしの様子をグラフィカルに表現した大壁面展示。来館者のくらしとのつながりを感じさせながら展示への期待を高める。



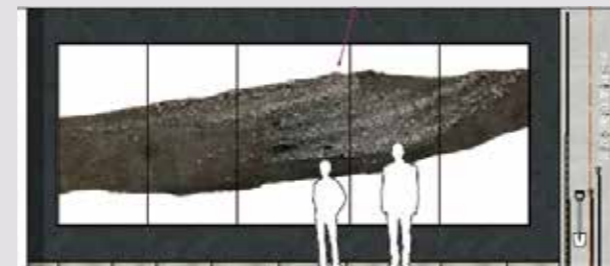
B | いつでもガイドツアー

展示解説はテキストと音声の2軸で展開。音声ガイドはゲストのスマホで操作。ここでは体験方法・操作方法の案内を行う。



C | 東名遺跡の発掘現場

壁面の貝塚剥ぎ取りを中心とした発掘現場の様子とともに、東名遺跡発掘の感動や迫力を伝える。



常設展示〈後半〉

自然とともにあった縄文のくらしに触れ、生き方や心を感じる

I | 祈り

縄文人の豊かで成熟した精神文化を想像しながら、現代を生きる私たちとのつながりを感じる。



H | ものづくり

自然素材を巧みに利用した縄文人。素材の選択や加工技術などから、自給自足の丁寧なくらしを想像する。



G | 食と技

生きるために最も必要な食を軸に、縄文人の生業を紹介。現代のくらしと重ね合わせながら、縄文人の日々の様子や感覚などに想いをめぐらせる。



J | 東名遺跡の環境

ムラのあった周辺環境や温暖化によって終焉を迎えることなど、東名遺跡をもっと知る。



K | 東名遺跡を未来へ

冒頭のシンボル展示の編みかご復元品を展示。東名遺跡の特徴を読後感として残す。



常設展示〈前半〉

東名遺跡の特徴と印象的に出会い直感的に縄文人の感性を感じる

D | 東名遺跡のたから

東名遺跡の最大の特徴である「編みかご」を静謐な空間の中央に象徴的に展示。



E | 編みかご

東名遺跡の最大の特徴である編みかごを、編み目をしっかり見せる切り口で展示。1点ずつケースに納め、実測図と見比べながらじっくりと観覧できる。



F | 感性と美

アクセサリーを中心に用途ではなく、美しい造形やデザインの視点で見せる展示。縄文人の美的センスやこだわりを想像して楽しむことができる。



振り返り展示

L | 東名遺跡の贈りもの

展示を通して伝えたいメッセージをテキストやイラストで表現。

もしかして今より豊かなくらしをしていたかも?

各コーナー展示概要 | 導入展示 常設展への期待を高めるイントロダクション



A 東名絵巻

前面に縄文時代の東名のくらし、背景に現代の佐賀のくらしの様子をグラフィカルに表現した大壁面展示。来館者のくらしとのつながりを感じさせながら展示への期待を高める。

絵巻端書き

温暖化で海水面が上がってきた水辺で、海の恵を享受しながらくらししていた人々がいた、という絵巻の序文を地図イラストとともに表現。



東名遺跡のくらしの様子

東名遺跡のくらしの各シーンを絵巻風イラストで表現。

コラム

イラストに描かれた様子を補足する解説パネル。

現代の佐賀のくらしの様子

現代のくらしの中から、工芸や食文化など縄文時代とのつながりを感じられるシーンのイラストを背景に散りばめる。

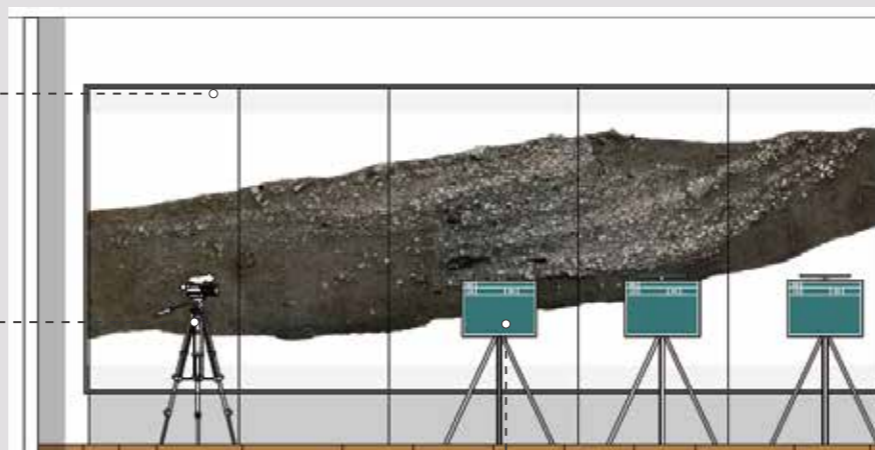
C 東名遺跡の発掘現場

壁面の貝塚剥ぎ取りを中心に発掘現場の様子を表し、東名遺跡発掘の感動や迫力を伝える。

第2貝塚剥ぎ取り

発掘調査の映像

現場にあるビデオカメラを模したモニターで発掘の様子を上映し、当時の雰囲気を感じてもらう。



発掘現場の再現

発掘に使用する道具（フルイ、土嚢袋など）を展示し、現場の臨場感を再現する。



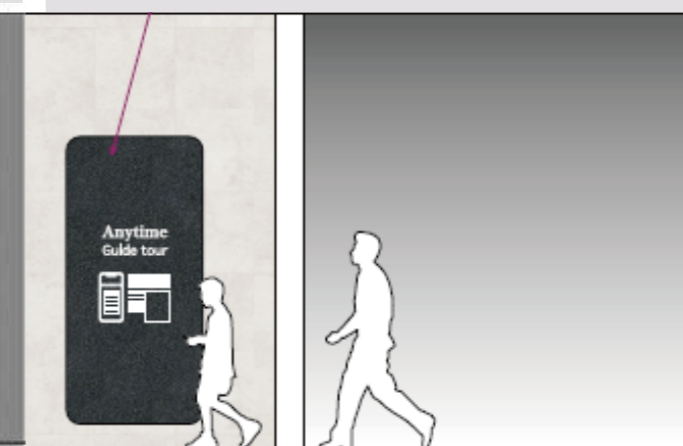
黒板型解説パネル

発掘の経緯や遺跡の特徴を紹介し、展示室へ誘引する。現場で使われる黒板を模したパネルと手書き風の文字で発掘現場の世界観に合わせながら解説する。

- パネル1. 「貝塚剥ぎ取り」について
- パネル2. 巨勢川調整池建設の掘削工事中での発見 地中深く埋没した理由とは？
- パネル3. 通常の遺跡では残りにくい動植物性遺物の大量出土 さまざまな物が奇跡的に残った理由とは？

B いつでもガイドツアー

音声ガイドの体験方法・操作方法の案内を行う。



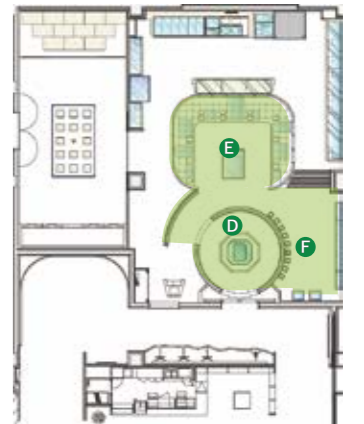
来館者のスマートフォンを活用し、手軽にいつでも参加することのできるガイドツアーのような価値ある体験を提供。展示物から目を離さずに解説を聞くことができ、資料を見るポイントを示すことで理解を深める。

L 東名遺跡の贈りもの

展示を通して伝えたいメッセージをテキストやイラストで表現し、来館者の感情を掘り下げる一助とする。

- 【前】 展示室に入る人→期待感を感じ、想像を膨らませる。
- 【後】 展示を見終わった人→縄文からの学びに納得感を得る。

各コーナー展示概要 | 常設展示〈前半〉 東名遺跡の特徴と印象的に出会い直感的に縄文人の感性を感じる



D 東名遺跡のたから

東名遺跡の特徴である「編みかご」を静謐な空間の中央に象徴的に展示し、「東名＝編みかご」のイメージを強く印象づけ、遺跡や編みかごの貴重性を感じてもらおう。



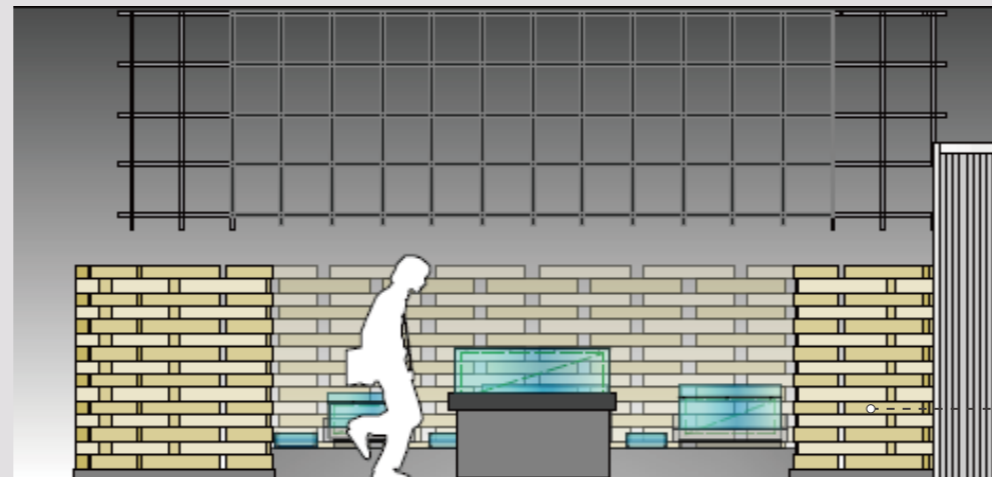
編みかごシンボル展示

解説は行わずキャプションのみを添え、資料への注目を集める。



E 編みかご

東名遺跡の最大の特徴である編みかごを、編み目（編組技法）の切り口で展示。来館者それぞれの視点でその美しさや縄文人の感性に想いを馳せてもらう。



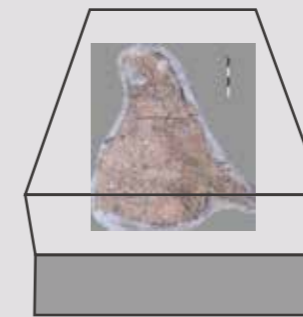
編みかご展示ユニット

コの字型のステージに複数設置



編み目実測図パネル

実測図を実物資料とセットで展示。実物の編み目の見方を補うとともに、実測図そのものの緻密な美しさを見せる。



展示台

実物資料を上からのぞいて鑑賞しやすいよう5°程角度をつけた展示台。資料を台座ごと引き出すことができる仕様とし、資料に負担をかけることなく、展示替えに対応できる。

F 感性と美

道具やアクセサリを用途ではなく、美しい造形やデザインの視点で鑑賞してもらい、縄文人の美的センスやこだわりを感じてもらおう。

1 | 美しいもの

貝器・土器・石器などのうち、デザインの特徴のある資料を選抜。資料情報は控え、感覚的に資料そのものに集中して美しさを感じてもらおう。



独立ケース展示

重厚感のあるガラスケースに資料を1～数点ずつ展示。上品さ、尊さを感じさせる空間で、資料を魅力的に見せる。



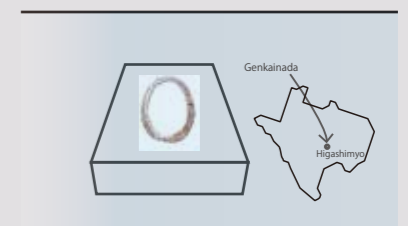
2 | 美しいものをもとめて

貝アクセサリなどが遠方からもたらされたことや、鹿角製腰飾を盛んに製作していたことなどから、縄文人の幅広い交流やこだわりを感じてもらおう。

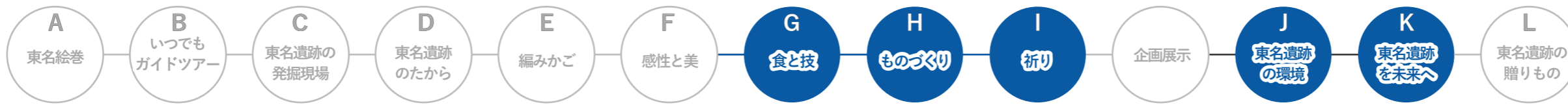


一連ケース展示

ケース内に資料に合わせた展示台を設置。グラフィックはガラス面に。



各コーナー展示概要 | 常設展示 (後半) 自然とともにあった縄文の暮らしに触れ、生き方や心を感じる



G 食と技

生きるために最も必要な食を軸に、縄文人の生業を紹介。現代の暮らしと重ね合わせながら、縄文人の日々の様子やその時の感覚などに想いをめぐらせてもらう。

3 | 食料の調達

採集・漁労・狩猟の道具から、技術や工夫を想像してもらう。

2 | 縄文のキッチン

磨石や集石炉など調理方法を紹介。

1 | 日々の食卓

骨等の遺物から食事風景を想像してもらう。



基本的な展示手法構成 - 「食と技」「ものづくり」「祈り」共通 -

①解説パネル

キャッチコピー+イラスト+テキストで解説。所々に自然科学分析等コアな情報をコラム的に添える。

②テーブル型什器

テーブル上に資料を設置し、上から透明カバーで保護。

③キャプション

資料の端的な説明と学術的な資料名称を資料の近くに設置。

④ミニドール

展示ケース内の資料の近くに情景を切り取った人形を配置。暮らしのイメージを補完する。



H ものづくり

自然素材を巧みに利用した縄文人。素材の選択や加工技術などから、自給自足の丁寧な暮らしを想像してもらう。



5 | 石でつくる

石器の素材調達や製作工程を紹介。

4 | 土でつくる

土器の種類や文様の付け方を紹介。

3 | 骨角でつくる

骨角器の素材や製作工程を紹介。

2 | 木でつくる

木品の素材や製作工程を紹介。

1 | 編んでつくる

編みかごや縄などの素材調達や製作工程を紹介。



I 祈り

縄文人の精神的な文化を紹介。豊かで成熟した文化を想像しながら、現代を生きる私たちとのつながりを感じてもらう。



儀礼 祭 埋葬



J 東名遺跡の環境

ムラの周辺環境や温暖化による終焉など、東名遺跡をもっと知る。

解説パネル

東名での集落の始まりや縄文海進による終わりを解説。微小貝からわかる周辺環境等、東名遺跡を深掘する。



微小貝

K 東名遺跡を未来へ

冒頭のシンボル展示の編みかごの復元品を展示。東名遺跡の特徴を読後感として残す。

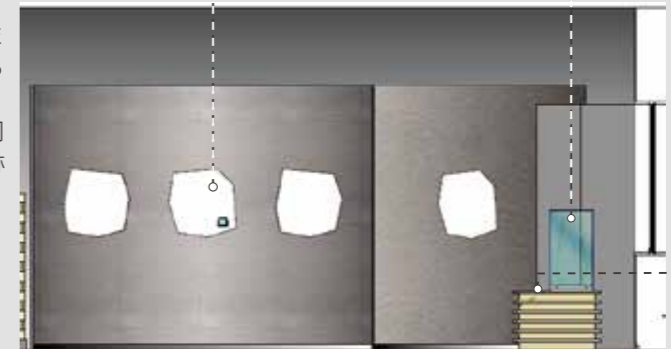
復元品

編みかごや展示を反芻し、シンボル展示へつなげる。



什器天面解説

遺跡の保存方法や重要性についてメッセージ的に紹介。



復元品

什器天面解説

各コーナー展示概要 | 企画展示 縄文をきっかけに地域の歴史を知る



企画展示の方針

企画展示と常設展示を一体とするねらい

- 来館者にとって、東名遺跡の展示と市内の他遺跡の展示をセットで見ることができる満足感ある体験を提供する。
- 限られた展示スペースの中で、常設展示・企画展示へのそれぞれの動線の交錯を防ぐ。
- 細長い室形状のため、出入口を長手壁側にすることで、展示ケースの配置効率を上げる。
- 企画展示にも貴重資料が展示されるため、常設展示と一体で環境管理をしやすいとする。

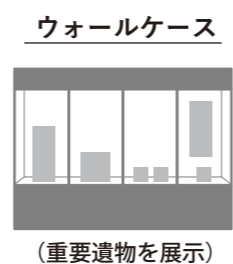
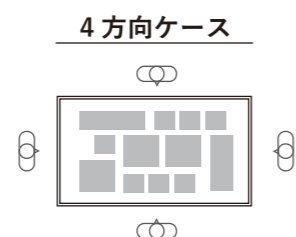
運用方針

年4回の展示替えを想定。展示替えによる閉室期間は1週間程度。



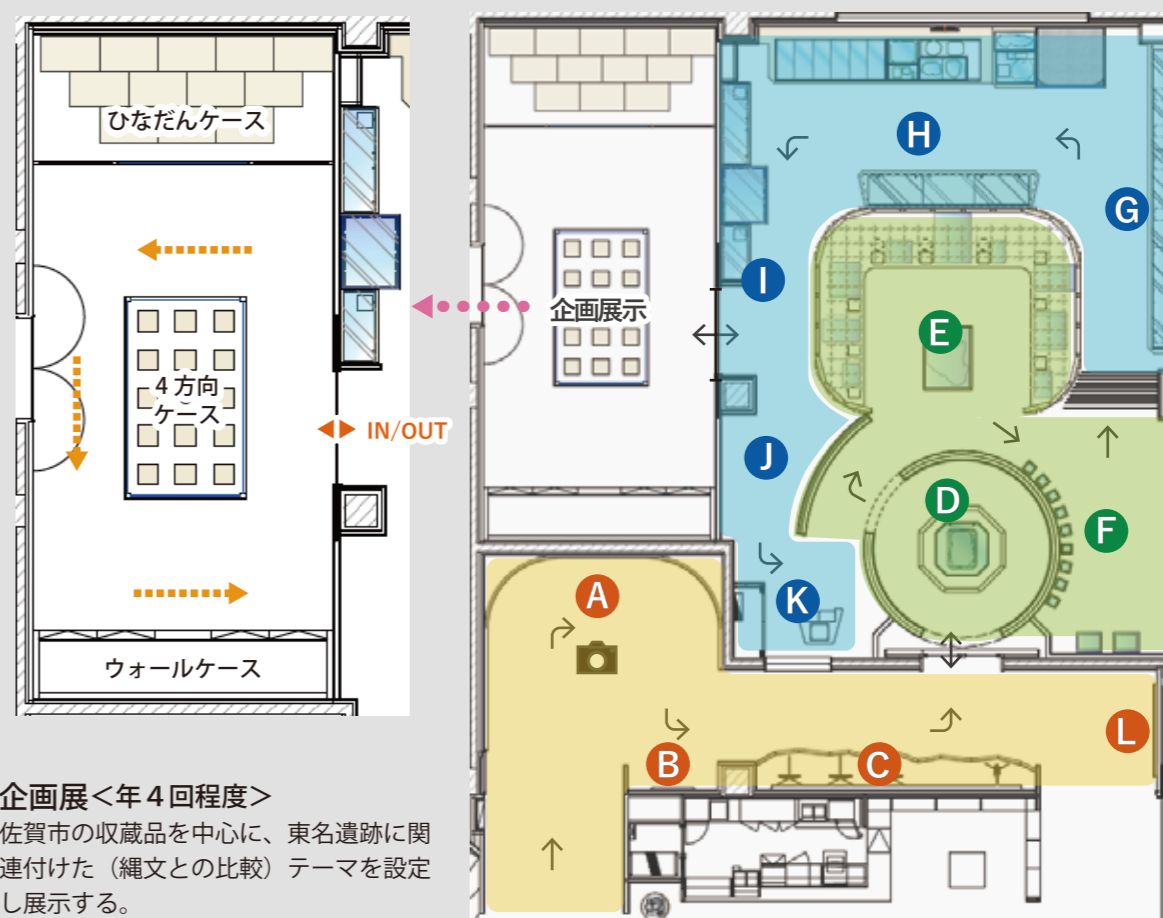
展示ケースの考え方

多様な展示資料に対応できるよう、3種のケースで構成。ケース内には吊りパネル用のレールを設け、展示テーマごとに展示構成を変えられる仕様とする。



ケースの配置と展示案

●東名遺跡に関連づけたテーマ設定により、佐賀の歴史に関する認識を深めてもらうと同時に、東名遺跡の特徴や重要性を浮き彫りにする。

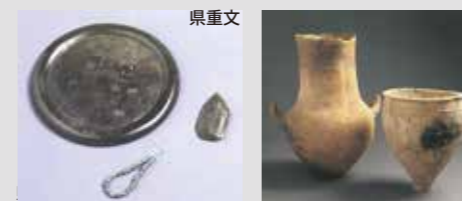


企画展<年4回程度>

佐賀市の収蔵品を中心に、東名遺跡に関連付けた(縄文との比較)テーマを設定し展示する。

展示案

■大陸文化の流入と弥生文化



青銅器と朝鮮系無文土器の甕棺(左:本村籠遺跡, 右:増田遺跡)

■肥前国風土記と古代文化 など



熊本山古墳出土遺物/古墳 築山経塚・瓦経/古代

ラウンジエリアの展示方針

地域住民を中心に幅広い層の方々が気軽に立ち寄り、ゆっくりと過ごす中で歴史に触れることができるエリア。歴史へのさまざまな関心度をもつ幅広い世代をターゲットに、

①考古ラボ ②トイレ ③カフェエリア

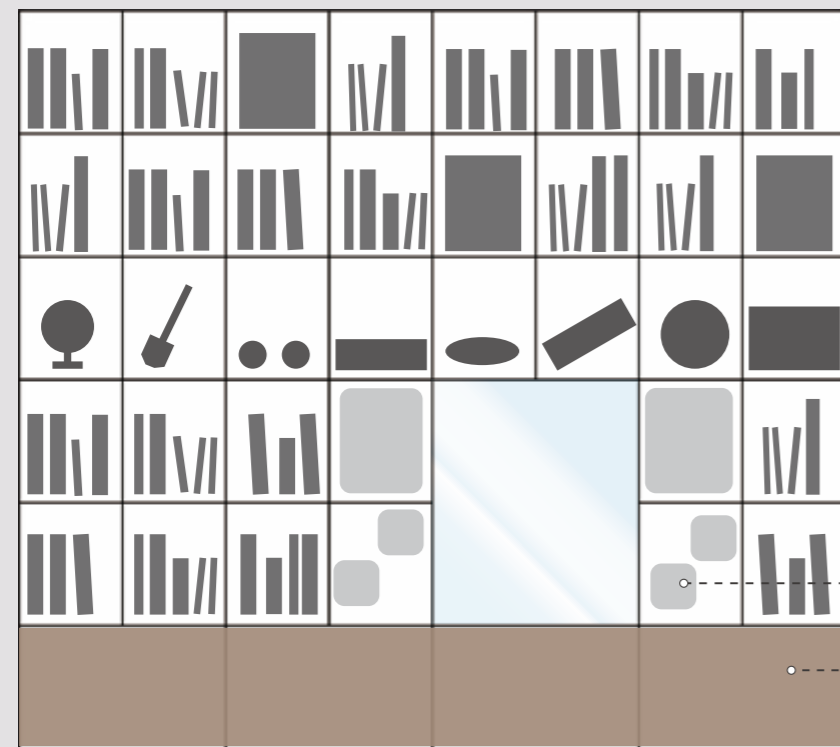
の3つのスペースに歴史へ興味をもつきっかけや展示室に入る動機付けとなる展示を展開する。

また、市の公共施設である役割を踏まえ、市内の他遺跡への周遊を促す仕掛けや小中学生の教育的活用も視野に入れた内容とする。



① 考古ラボ

整理復元室と隣接し、埋蔵文化財の整理作業や資料の観察を行うことのできるエリア。施設に入ってきた際に目に留まる空間で縄文時代の基礎知識を提供するほか、平常時には小中学生の自習や自由研究への活用需要、考古マニアの知的好奇心に応える考古学関連の書籍、資料を集め手に取れる場とする。土日や長期休み期間には作業スタッフがレクチャーするイベントの開催も視野に入れ、必要物品の収納スペースも用意する。



考古ライブラリー

考古学や遺跡に関する専門的な書籍から小中学生向けの入門書、絵本など幅広い方向性の書籍を集め、実際に手に取ることで、興味関心を広げる一助とする。手の届かない上段には考古学者の愛用品をイメージした品や手に取ることを想定しない本を並べ、世界観を創出する。

収蔵の解説

ラウンジ側から見ることが出来る収蔵庫の周囲の壁面に資料の説明や豆知識、エピソードなどを記入し、掲示できるスペース。内容を一定期間で更新することで何度来ても新しい知識を得ることのできる楽しさを提供する。



収蔵庫内展示のイメージ

イベント用品収納

作業スタッフによる整理作業体験や資料復元などのレクチャーを行うイベント開催時に使用する物品を収納する。

② トイレ

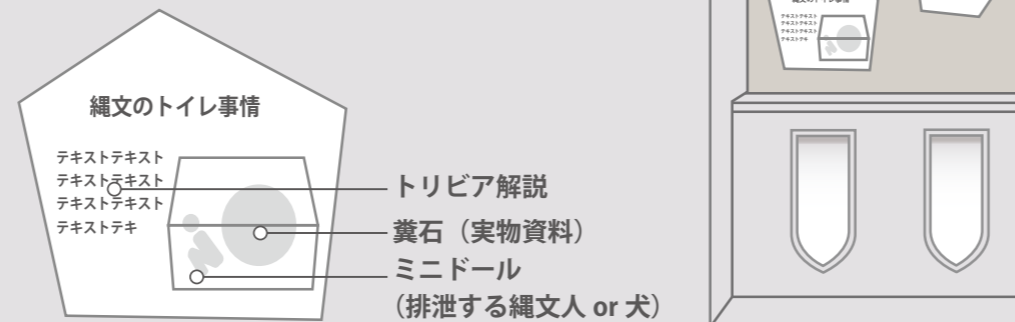
各トイレに糞石とトリビアを展示することで、施設の特徴を感じられる空間に。発見する楽しさから施設への親しみを感じてもらう。

糞石展示

糞石資料を入れるケースを一体化したケースを用い、排泄する様子のミニドールとともに展示する。

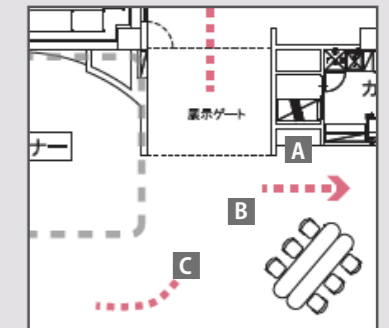
縄文トリビア

縄文時代や東名遺跡に関する豆知識やミニエピソードを紹介する。



③ カフェエリア

地域住民や展示室観覧者が気軽に立ち寄り、ゆっくりと過ごすことのできるエリア。3箇所に展示を展開し、縄文や歴史・考古も感じられる憩いの場を創出する。



A | 四季の食事

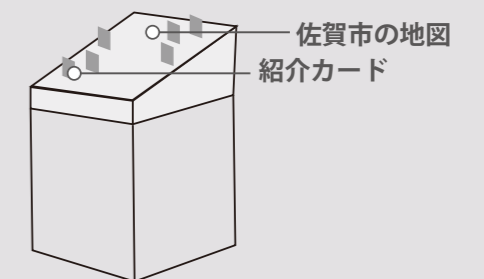
カフェと展示室入口に挟まれた壁面で縄文時代の四季の食事を壁画のようにイラストでグラフィカルに表現し、紹介する。壁面前に設置した什器上には、石皿と磨石を用意し、カフェで配布する木の実を実際にすりつぶす体験を提供。縄文時代の調理風景を想像してもらう。



木の実すりつぶし体験 (石皿、磨石) ※現世品

B | 周辺案内

佐賀市の地図の周囲に、情報を書いたカードを立てられる什器を配置し、市内の観光情報や周辺遺跡を紹介する。



C | ピックアップ展示

簡単に出し入れできるシンプルな什器を配置し、収蔵品の中から選出した品を展示し、定期的に入れ替えを行い、展示室内で紹介しきれない資料を見せる。

6 東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業スケジュール(予定)

【資料6】

年度		R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)				R9(2027)				R10(2028)			
設計	建築実施設計																				
	屋内展示実施設計																				
	屋外展示実施設計																				
施設・ 現地整備	造成工事																				
	建築工事																				
	外構(植栽)工事																				
	備品搬入等																				
	屋内展示制作																				
	現地整備工事 (屋外展示)																				
準備・ 手続き等	県道整備工事等																				
	移転作業・開館準備																				
	建築計画通知手続き																				
	文化庁補助金																				
情報発信・ 運営関係	広報(HP・SNS)																				
	ワークショップ・ 体験イベント等																				
	ワーキンググループ 施設運営検討																				
委員会	整備指導委員会																				
	保存モニタリング 委員会																				

供用開始

※令和9年度に整備工事完了、令和10年度に供用開始予定

【委員会の開催】

東名遺跡整備指導委員会:年2回程度

東名遺跡保存モニタリング委員会:年1回程度

《東名遺跡整備指導委員会検討内容》

第5回:実施設計の確認・検討

第6回:実施設計の最終確認

第7回:屋外展示実施設計の確認・検討

第8回:屋外展示実施設計の最終確認

第9回:建築工事の状況確認

第10回:建築工事の最終確認・屋外展示工事の状況確認

第11回:屋内展示制作の最終確認・屋外展示工事の状況確認

第12回:整備工事の最終確認